

# リーダーの本棚

コモンズ投信社長

伊井 哲朗氏



いい・てつろう 1960年名古屋市生まれ。関西学院大学院法学部を卒業し、84年に山一証券入社。メリルリンチ日本証券を経て、コモンズ投信創業とともに現職。

長期運用に徹した投資信託を運用する会社「コモンズ投信」を、渋沢健氏らとともに2008年に立ち上げた。創業時の手元に置かれ、今も読み返す原点の一冊がある。

当時は日本に独立系資産運用会社が非常に少なく、企業を30年くらいの時間軸でじっくり評価する長期投資の文化も一般的ではありませんでした。まして、そんな運用をする投信会社をどのようにつくり経営すべきかなんて、だれも教えてくれません。志とともにする創業の仲間と考え抜くしかありませんでした。

そんななか、長期投資で知られる米国の資産運用会社キャピタルについて著名コンサルタントが書いた『キャピ

## 創業の志支えた道しるべ



タル』は、貴重な道しるべとなりました。資産運用の世界では伝説的な会社ですが、メディアの取材をほとんど受けない秘密主義の会社だったので、一字一句が新鮮でした。スター運用者はつくりたい。顧客への報告の質を高める。忍耐（ペイシエンス）をもって運用に向き合う。どれもコモンズの組織づくりや経営の範となりました。

創業者ジョナサン・ラブラス氏は大恐慌まっただ中の1931年にキャピタルをつくりました。私たちがコモンズを立ち上げ運用を始めたのは、米国内でリーマン・ショックが起こり、世界中の金融市場が混乱しているさなか、危機からの出発という点で似ていることに勇気づけられました。

今でもこの本を手にとります。創業の志に立ち返ることができます。

### 【私の読書遍歴】

#### 《座右の書》

『キャピタル』（チャールズ・エリス著、鹿毛雄二訳、日経ビジネス人文庫）  
『人生生涯小僧のこころ』（塩沼亮潤著、致知出版社）。塩沼氏のほかの著作も「すべて読んでいます」。

#### 《その他愛読書など》

- ①『アメリカ金融革命の群像』（ジョセフ・ノセラ著、野村総合研究所訳、発行）。証券会社のほか投信やクレジットカードなど様々な米金融サービスの隆盛を記す。
- ②『ソニー再生』（平井一夫著、日本経済新聞出版）。低迷企業を立て直した内容は多くの経営者を引きつける。「過去1年間で読んだ本のなかで最も感銘を受けた」
- ③『Hello, CEO.』（幸田真音著、角川文庫）。起業を考え始めたころに読んだ。リストラされた主人公がベンチャーを立ち上げる話に、自らを重ね合わせた。
- ④『易経入門』（氷見野良三著、文春新書）
- ⑤『読書大全』（堀内勉著、日経BP）。これからの人生で、紹介されている本をできるだけ多く読むのが楽しみ。

金融の振り出しは山一証券。支店の個人営業や、本社の営業企画などを担当した。

経営方針には「お客様とともに繁栄する」と記されていましたが、営業の第一線では逆のことが行われていました。これはまずいなあと感じ、いろいろ提言していたので、本社で商品戦略などを練る部署へと異動になりました。社長や副社長のスピーチ原稿を書くような仕事もしました。

90年代に株式売買手数料の自由化の議論が始まり、固定手数料で守られてきた日本の証券会社も対応を迫られました。参考になったのが、75年に「リーダー」と呼ばれる自由化を経験した米国の事例です。

個人に資産運用の助言をして預かり資産を増やしたメリルリンチのことを、熱心に研究したものです。メリルのアナリポートを読むのが楽しみでした。メリルをはじめ米金融業界の変貌を描いた『アメリカ金融革命の群像』も読みこみました。

残念なことに山一は97年11月に自主廃業してしまいました。その多くの支店と営業マンを引き継ぎ、日本でリアル営業を始めたのがメリルです。私もその支店のひとつで新しいキャリアを歩み始めました。

2000年代初めのネットバブルの崩壊で痛手を受けたメリルは、証券化商品の組成・販売など投資銀行業務へと急旋回を始めます。日本でリスクの高い商品を販売するのを見て、気持ちが高まりました。『金融革命』で活写されていたような会社ではなくなったのです。仲間と起業に向けて議論し、メリルを退社したのが08年9月。10日後ぐらいにリーマン・ブラザーズが破綻し、メリルはバンク・オブ・アメリカに買収されました。

危機をくぐり抜けての創業。不安定な市場と向き合う仕事だけに、気持ち揺れることもある。

「千日回峰行」を知っていますか？ 険しい山道を毎日、往復で48時間。それを毎年4カ月、9年かけて1000日続けるのです。このすさまじい、命懸けの修行をなし遂げ、さらに9日間、食はず、飲まず、眠らず、横にもならない「四無行」も達成なさったのが仙台市の慈眼寺住職、塩沼亮潤・大阿闍梨です。

修行の心持ちが伝わった『人生生涯小僧のこころ』は、心を整えるために読む本。実際に寺にうかがい、お目にかかったこともあります。フランクで笑顔のすてきな方ですよ。本やお話では謙虚であることの大切さが説かれます。長期投資の神髄にも通じます。良い仕事をするための心のもちようなのでしようね。

（聞き手は編集委員 小平龍四郎）